

多角的な視点をもとう！～3つの目で～

○虫の目（複眼）

昔、テレビドラマで「事件は会議室でおきているんじゃない！現場でおきているんだ。」の台詞がありました。私たちは生徒の中に入り、小さな成長や変化を見つけることが大切です。また、生徒の会話に耳を傾ける必要もあります。ポイントは一方的な目で見るとはなく、トンボの目のように、近づいて様々な角度から物事を見ることが大切です。だから、全校集会や学年集会、体育祭の練習等で生徒を後ろから見るだけでなく、横や前からも見る必要があります。また、自分の授業や学級の様子だけでなく、他の教科の様子や部活動での活躍なども見るのが大切です。体育祭で言えば、学年や班対抗リレーの「バトンパス」の徹底ですね。



○鳥の目（俯瞰）

高い位置から俯瞰的に全体を見回して見るということです。虫の目ばかりで見ていると、良い所も発見できますが、同時に多くの問題にも気がつきます。その問題を見つけしだい克服するのではなく、全体を見ながら克服しなければならない課題を絞り、課題解決の優先順位を決めていくことが大切です。いっぺんにいろいろと指示をするのではなく、例えば①並ぶ位置を確認させる ②前から順に座らせる ③静かにさせる ④リーダーの方を向かせるなどの手順をリーダーに教えると上手くいくと思います。対抗リレーで言えば、「走る順番」の工夫、テイクオーバーゾーンの活用などを考えることですね。

○魚の目（敏感）

潮の流れや干潮満潮という「流れ」を見失うなという意味です。これからの時代に求められている力は？自ら課題を発見して、それをチームの仲間と協力して解決していくような力です。または、国籍や年齢、性別等に関係なく、それぞれの良さを認め合いながら、協力をして新たなものを開発していくようなコミュニケーション力が求められます。体育祭を通して何を学ぶのか、体育祭後にどんな集団になるかを考えさせる必要があると思います。対抗リレーで言えば「何のために対抗リレーをするのか、目的の共有」です。目的が共有され、全員の意識が高まれば、さらなる戦略が立てられます。また、負けたとしても目的が達成されれば生徒達は大きな自信になります。



□体育祭の練習から

○体育祭の練習も後半戦です。どの班も熱のこもった練習が行われています。班コンテストでのダンスや隊形移動での動き、かけ声等が揃ってきました。3年生を中心に各学年のリーダーも一生懸命に声を出して、まとめようと必死です。昨年に負けたくないぐらい入場行進や準備体操などに熱心に取組みながら、いい体育祭にしようとしています。各競技での入場や退場、かけ声や競技中の頑張り、私たちも意識を高くして生徒の指導に全力であたっていきましょう。生徒の本気の表情は本当にいいものですね。

職員の団結力を再確認！

○体育祭小屋入りを16日（木）にんにく屋（吉井町）で行いました。中間テスト期間中で採点やテスト準備等に忙しいなか、10名の先生方の参加で大いに盛り上がりました。にんにくの臭いは気にはなりましたが食欲には勝てず食べて、食べて、また食べての充実した時間でした。お世話をいただいた西見先生ありがとうございました。このにんにくパワーを体育祭で爆発させたいと思います。

■テント準備を野球部がしてくれました。大変だったと思います。ありがとうございました。

